

「ダメモト」

シリーズ vol 8

"Dameh-Motoh"

series vol 8

"DaMeh-Motoh" in Japanese language

(=Principally,

in this world, has been almost of all trials

never get in success is normal, natural.)"

うときゅう いっき

by Khazu san

物書き

うときゅういっき



目次 (Agenda)

-contents-

●本編掌編小説 1

(Japanese expression ver.)

「辞書を置かない英会話教室の英会話特別講義(1)」

(English expression ver.)

“On purpose no setting English dictionary, English conversation class, extra lecture for Japanese.(1)”

●本編掌編小説 2

(Japanese expression ver.)

「辞書を置かない英会話教室の英会話特別講義(2)」

(English expression ver.)

“On purpose no setting English dictionary, English conversation class, extra lecture for Japanese.(2)”

●本編掌編小説 3

(Japanese expression ver.)

「辞書を置かない英会話教室の英会話特別講義(3)」

(English expression ver.)

“On purpose no setting English dictionary, English conversation class, extra lecture for Japanese.(3)”

●本編掌編小説 4

(Japanese expression ver.)

「辞書を置かない英会話教室の英会話特別講義(4)」

(English expression ver.)

“On purpose no setting English dictionary, English conversation class, extra lecture for Japanese.(4)”

●著者プロフィール(Writer`s profile)

序

2022/8/30

芭蕉に倣う

On seeking for new way of little bit long Japanese “Haiku” style.



「芭蕉の俳句が手本。このコンセプトを活かし、今少しガイド的な言葉添えをした新しい表現形式が出来ないものか？」

本書はその訓練に掌編小説を原稿箋3枚以内で書き表すトライアル・シリーズで御座います。

本編

2026/1/1

1st Jan. 26

(Japanese expression ver.)

「辞書を置かない英会話教室の英会話特別講義(1)」

(English expression ver.)

“On purpose no setting English dictionary, English conversation class, extra lecture for Japanese.(1)”



(Japanese expression ver.)

「辞書を置かない英会話教室の英会話特別講義(1)」

「英語の at とか in とか on とか、名詞の前に置くものを「前置詞」何て言うから分かんなくなるのよ。

動詞を修飾する「副詞」だと思って使えば、英語が全然分かり易くなるのに…」

「突然また、何の話？」

「ねえさん、シャチョの十八番（おはこ）の♪出物腫れ物、処嫌わず♪♪チョイと出ました、ヨサホイのホイ♪的♪口から出まかせ出放題♪でんがな…」

「而して（しこうして）、何はともあれ、♪とまれこうまれ♪♪やあやあ、遠からん者は音にも聞け。近くば寄って目にも見よ♪でだが…」

上の話では、むしろ動詞の後に付く副詞というより、殆ど動詞同等に使われている場合があるんだ。しかも外国人の使い方はこっちの方が遥かに多いし、日本人にはヘンに聞こえ

るが、是で外国人に話掛けても違和感なく聴いて貰えてるみたいだったし。

Go out, up, down, through, beyond, on and on forward…

(外に出て、上がって、下がって、突き抜けて、向こう側に行ってから、ドンドン前に進む)

で通じるし、

最近、流行りの Taco だって

Trump always chicken out

(トランプさんはいつも、チキンハートで、(すごすごと) 退出する) =(トランプさんはいつもちょっとしたことでビビる、様子見伺いの臆病者だ) (=詰まり訳は左から右に順番に進む。だから動詞的に使われていると言っているんだ)

chicken out 何て言うのは、イディオムとして日本の英語辞書には絶対に出て来ないけれど、外国人には直ぐに分るみたいだ。なんか、そう言う正確なイディオムがある訳じゃなくて、何となくそういうことを言いたいんだろうなって言う感じでとらえてるみたい。是も out を前置詞だと考えたり、厳密に正確なイディオムでないと納得しない日本人には分かりっこない。

がんばれ！！を英語では hang in there という事が多いが、

是なんか見ると英語って、抽象的概念じゃなくて具体的シーンを言っている場合が多い様だ。

詰まり (そこにかじりついて、ぶら下がってろ = 踏ん張ってろ = 踏ん張れ = がんばれ) って言う感じなんだろう、な…

あと、英語の中でもアメリカの英語だけ特殊ミタイ。

アジア系とかなんとか他の英語は、やや論理的傾向が強いが、アメリカ英語だけ冗談を基にして出来上がってるみたいなんだ。

英語で lucky というのを米語では break a leg bone で言うんだが、初め聞いた時に、「何でこんな時に「足の骨を折る」なんて言う場違いなこと言ってんだ、コイツ」と思ったが、よくよく聞いてみると「足の骨を折って公然と休みをとれるからラッキー」って言う事らしいんだ。そう言うジョーク (婉曲話法) が解らないと全然ダメみたい。

東大の英文科で英文法できマクリで、英単語豊富な明治時代の文豪、夏目漱石が国費留学で行ったロンドンでうつ病になったと聞いたが、ニューヨークに留学していたら、覚えた英文法、英単語が全く役に立たず、周りとのコミュニケーションも、彼らとの雑談での息抜きも出来ずに自殺していたんじゃないの？よくわかんないけど…」

「ホントにお前さんて、ヒマね。どうでもいいような事ばっか考えついて…」

「シャチョはベリ暇人の事、ありますです。

英語的にはヒマ人メークス、イマージン(Hima-Jin (=over leisure time having guy) makes to imagine well) (=暇人はよくイマジネーションする) とでももうしましょうか…」

「ヒマなのはワシだけではない。お前も超絶、ヒマであろう、ネバ助、よ！！」

「この二人、♪目くそ、鼻くそを嗤う♪合戦だわ…アホ臭いからアタイ、先に寝ようツと」
 「♪桃栗 3 年、柿 8 年。瓜は 9 年で成り下がり、梨のばかめは 18 年♪
 続きますは♪娘 18 はレコードでゴザル。乗せて回せば唸り出す♪」
 「ナニソレ、お前さん？」
 「ふと思いついた。意味はない」
 「ひょえ～！！♪恐怖のズンドコ・ネタ♪ハレホレヒレハレ～！！シャチョ、相変わらず
 …♪お戯れが、過ぎましようぞ♪…」
 「やっぱ、アホくさいから、つきあってらんない。真人間（まにんげん）のアタイは、先
 に寝るわ。
 ブータラ、プータラ。ブースカ、ブー、ブー」

(English expression ver.)

“On purpose no setting English dictionary, English conversation class, extra lecture for Japanese.(1)”

“It invites to be no understandable English language because “at”, “in”, “on” like these is defined(=treated) as a “preposition”.

Rather, defining as “adverb” is getting turned to be more easily understandable one, I suppose. “

“Suddenly again, what`s the story?, Darling?”

“Madam Poholo Sir, Don Qui Hote Boss`s as usual famous pattern, N.S.C.O.A=♪non-sense suddenly comes out always♪is.”

“But, anyway, will start.

About above story, rather than getting used as “adverb”, in some case, “prepositions (or the left case, is called adverbs)” getting used as verb the same function, they have. Additionally English speaker`s using way is this type so much more many. For Japanese people ears sound so strange, however, in the case of this style speaking to English speakers, they were very smoothly acceptable, looked like.

For example my speaking English,

“go out, up and down, through, beyond, on and on forward…” is acceptable.

Recently, famous phrase “Taco”, also

“Trump always chicken out”=“Trump always holding chicken heart and easily going out, escaping out.”(=constructure of sentences flows from the left side to the right side, so that I called it, looked like using as verb.)

On Japanese/English dictionary, “chicken out”, as a idiom, never be seen, but for English

speakers, seems to be understandable, it's not as a rule, but speakers want to show, the point might be so, why some, looked like.

In this case also, Japanese people who regard it to "out" is preposition or a using "out" is under grammatical severe condition, never can understand the sentence "Trump always chicken out".

In Japanese language we say "Gambare" is in English said "hang in there", saying the cases so many, according to observing this, in English expressing way not by abstract concept, but by explanation to concrete scene, the cases so many, I guess.

Concretely, grab the rock, tackle the big rock=hang in there=Gambare (in Japanese word), like that.

Additionally, within speaking in English, the area, American English might be extra one, looks like.

Other area used English might be little bit logical, but American English looks like based on joke, might it.

In British official English speaking "lucky", in American Native English speaking "to break a leg bone", at the first time, hearing of that, I got unexpected (=shocked and doubted) "why in this case "breaking a leg bone", why? this guy putting it here?" but after deeply rethinking, I got noticed "breaking a leg bone brings no work officially ok, then a it means "lucky"!! might be..." Thus joke custom no understanding might be no understandable American native English, maybe.

I heard of that in Meiji era in Japan famous great author Soseki Natsume who was very hi score student in Toh-Dai(=Tokyo univ.)about English grammar, and had much knowledge of English correct words, who was going abroad for studying, staying in London city, in the term he got turned to be falling into mental disease, but if in the case of going abroad for studying city, New York, he might got selected suicide way because of loneliness which was from no could communicate with Natives despite of his hi level correct English grammar and words using. Not clearly I can understand..."

"Really too much leisure time holder, hey you, Darling, you are!! Always you are thinking about tiny, out of core point, non important matter, thinking about, only!!"

"Exactly, Don Qui Hote Boss is quite too much leisure time holder, guy!!

In the case of speaking in English, "Hima-Jin (=in Japanese language means "too much leisure time holder) makes to imagine well, like this expression or not..."

"Too much leisure time holder guy is not only me, but also you too, also, hey you, Nepali guy!! An?"

"Both guys are ♪ in the same hole staying, the same kind of warms♪ no touch them anymore is better. will go to bed alone, earlier!! Dumb, Crazy kids!!"

2026/1/9

9th Jan. 26

(Japanese expression ver.)

「辞書を置かない英会話教室の英会話特別講義(2)」

(English expression ver.)

“On purpose no setting English dictionary, English conversation class, extra lecture for Japanese.(2)”

“



(Japanese expression ver.)

「辞書を置かない英会話教室の英会話特別講義(2)」

「英語は日本語の様に細かく分かれていない。厳密、ジャストでは無く大まかで、曖昧だ。日本語の様に文字、論理な意味主体ではなくイメージ、コア・イメージ主体だ。日本語に慣れていると無意識に日本語同様、英語にはそれに見合う厳密、ジャストな対訳がある筈だと思うから矢鱈単語を覚える事になる。受験英語とはまさにこの厳密な区分けを全部覚える事だ。が、英語はコアイメージ主体で、それを状況に応じて使い回しているだけで、そんなに厳密に細かく分かれていない。」

ダカラ厳密中心、ジャスト中心の受験英語をやればやる程、タガがはめられて、硬直化し、身動きが取れずに、フレキシブル主体の英語は喋れなくなると言っているんだ。

覚える単語は、have, make, get, take なんかの動詞だけで充分。

というのも、have, make, get, take なんかの使い方を見ると状況に応じてフレキシブルに意味が千変万化している。

それをイディオム化して全部覚え様とするから、その途方の無さに眩暈を覚えてしまう。

「ジャストな英語」とは、言ってみれば我が国では、「公式化されたイディオム」の事だ。そうじゃないと日本人は納得しないし、安心もしないからだ。所謂「お墨付き」が欲しい訳よ。謂い方を変えれば「権威の裏打ち」が欲しい訳。「辞書をその裏付け（権威化）」にしている訳。

ま、国民性と言えば国民性なんだが…

結果として、英語を手っ取り早く学ぼうとして、却って学びにくくして遠ざけている様なもんだ。

文章構造より、其処が全然違っているから、英語を日本語に当て嵌めようとして学ぶといつまで経っても英語が身に付かない。

余談にはなるが、AI ロボットが正しいイディオムを辞書丸ごと覚えたのを流ちょうに喋っても、外国の英語ネイティブからは、「文法的には正しいんだけど、なんか変」って言われそうな気がする。ルール通り過ぎちゃって、その場のノリで「わざと外す」とかできないのかもしれないな。

基。

それに暗記物だと、記憶を引き出すのに時間が掛かるから咄嗟に出て来ない。

しかし、前置詞 in を him などの目的語と組み合わせて補語として(O+C)、get him in「彼を中に入れた」という風に、左から右に流れに沿って訳し、in を動詞的に使わうと、記憶を一々引き出さずに、その場でドンドン作り出して、話せる。

英語は have, make, get, take 等の有名動詞に所謂前置詞を目的語の後の補語として組み合わせただけでも相当な英会話が出来る。

上述の動詞なんて中学で教わるレベルで十分だし、前置詞（或いは副詞）にしたって主なものは大した数じゃない。

後は前置詞を副詞とか、動詞代わりに使って組み合わせればいい。

前回話した go out, up and down, through, beyond, on and on forward みたいにだ。

もし、分らなきゃジェスチャーを加えれば大体相手には分かる。

その場の状況に合わせて「オリジナルな英語を作って行けば」いいだけなのよ。

いちいちイディオムとして覚える必要なんて全然ないのよ。

あとは、at とか in とか out とか off とか away の基本イメージを覚えればいいだけ。

長文読解なんて言うのもあれはバカ。

そんなんの文を短く区切ればいいだけジャンよ。

長文なんて却って相手に「で、アンタは結局何が言いたい訳？」って怒られて御仕舞ヨ。
外国人て、こっちがネイティブスピーカーじゃないと分ると、多少間違っても何も言わず、
いろいろ補って考えてくれてるみたいだし…

詰まり我が国の英語教育は、どうでもいいような事に膨大なコストと時間をかけて、何の
意味もない、完全に無駄な事やっているだけなのよ。

あれだけの時間とコスト掛けて、結局は何もしゃべれない訳でしょ？アホクサ。

よく、ネットなんかでネイティブが注意して直させる場面が頻出するけど、あれは「そう
指導しろ」って雇い主から言われてそうしてるだけで、実際には全然細かいこと気にして
ない。

ネイティブのインストラクターだってお金をもらう額が違ってくれば、否応なくそうする
訳だし…そんな細かいこと誰も気にしてないんだけど…

第一そんな細かいこと一々指摘してたら、ヤな奴だって思われちゃうし…

とは腹の中では思っても。

でも、流石に on desk（机に座る）と at desk（机に向かって座る）くらい違うと注意して
くれるけど、あとは大抵 OK よ。

むしろ、彼らにとっての問題は、日本人の発音が悪すぎて、相手は何を言っているのか分
からない事の方が多いみたい…例えば”MacDonalds”を”Macdonaldo”と言ったり
”Disneyland”を”Disneylando”といったりとか、

ジャングリッシュで「もしもし」という電話の呼び声を”Hello”じゃなくて”If, If”と言っ
たりする類の事なんだけど…

それと、是が一番なんだが、相手がしている話が面白い面白くないかって事ヨ。

面白そうだったら、何言ってんだか必死に理解しようとするでしょ？

英単語なんて却って外国人より日本人の方がよっぽど知っている様な気がするよ。

外国人が日本人の英語聴いて余りにレアな単語知ってるんで魂消ていたのを思出したよ。

「何処からそんな単語引っ張り出して来たの？」「それ、何語？」とかって。

中学までの知識で十分すぎる程、十分。

文法は中学までにすべて教わっている。しかもたった SVOC だけ。

高校大学何なんて英文購読時間が増えてるだけだろうにヨ。

全然関係ないのよ、高校大学の英語なんて」

「それで、アホで無資格なお前さんでも、英語喋れるわけかぁ…」

「英語っておばかさん向きなんですかねえ、シャチヨ。じゃ”賢いワテ”には向いてないわ」

「どうしてそう言う話になるの？チミラ二人…それともチミラ二人、あん？或いは、なん
か俺に恨みでもある訳？あん？言うてみ！！いってごらん、素直に、ハッキリと！！え
っ！！」

「又なんか言うと、話長くなるし…”潤いお肌維持”の為のお昼寝の時間、減っちゃうし…」

「ワテかて、休み時間減っちゃうし、耳タコ話には飽きてるし…」

「ボソボソ…」

「モゾモゾ…」

(♪數蛇♪を恐れて言うに言えず、どうしたものかとWhy困る二人…)

(English expression ver.)

“On purpose no setting English dictionary, English conversation class, extra lecture for Japanese.(2)”

“English language is not separated, not branched, not segmented in detail like a Japanese language.

English language is not just segmented, but broad flexible one. Like a Japanese language, English language is not writing letters, logical meanings main, but the main is core-imagination.

In the case of being familiar with Japanese language, unconsciously, as the same as Japanese language, we have tendency of regarding to (=imagining) English language also have pinpointed, just translated (=matched) word in English. From it, we get turned to memorize unbelievable huge amounts of English words.

For passing into univ. English subject exam. in Japan is just it above.

Oppositely, English language is core-imagination main, not so pinpointed, just segmented one.

From it, the more prep. passing into univ. English which in Japan, required pinpointed, just segmentation, exam., the more far from original flexible main English language due to flexible main English get fastened, get framed by formed English rule full, I insist.

To have to memorize words is only several words like a, “have, make, get, take”, it`s enough. Because, in the case of monitoring at using style of “have, make, get, take”, it`s very changeable, flexible at the fitting smoothly to as it happened, the situations.

Despite of it, trying to memorize all as idiom sets, will get shocked by so huge amounts of memorizing idioms.

“Just fit pinpointed English” means, using other words, “officialized idioms” in Japan.

If it`s not so, because of that Japanese people never be agreeable, never get calm down. in other words, they hiddenly require the back bone of authority.

It`s can be called our Japanese typical national custom tendency.

As a result, trying to master English language, rather, oppositely, kicking it far away, like this. Even though it`s not the difference from the constructure of sentences between Japanese/ English language, but difference from them (=logical/ imaginative), so that trying to match

English to Japanese language will force kicking master English, rather, far away, might it be, I guess.

It might be side story, the later, even if AI robots get learning about all dictionary idioms and memorizing ones, they can speak it fluently, English native speakers might say “Just on grammar correct, but little bit why some strange”, will get said, I suppose.

Too much obeyed by rule, so that at the time joke performance AI never can have done it, might it be.

Will return to main road.

And treating it as a memorizing ones, for picking them out will take long time, missing the timing.

But, according to my perspective, in the case of using preposition “in” as like an adverb or verb (=complement), SVOC` s O+C, for example “we get him(O) in(C)”, Learning English will get turned not to be memorizing idioms work but to be creative work, because at the time staying, to happening matters can make any new, original one out.

English conversation is , in so many cases, enough that merely only using the famous, general verbs “have, make, get, take” + O + C.

The quantity of have to memorizing verbs is enough as the same as getting learned in secondary school class, and adding on, memorizing several main preposition as using, adverb, like a verb,(=Complement) only. And mixing above, and using, it`s enough.

Like a, in the previous time I told, “go out, up and down, through, beyond, on and on forward “

If they are not understandable, attaching gesture is well, might be.

English language is merely only, while matching the situation of the time, creating one is only.

It`s no need to memorize it as an idiom each time by each time.

Additionally, the remained one is memorizing only basic functional imaginations of or “at”, or “in”, or “out”, or “off”, or “away “and so on.

Exam subject of “long sentence literacy” in Japan proper is perfectly stupid!!

Long sentence is no need. It`s merely only separating cut to short sentence, just only!!

“Long sentence”, rather, will invite their complaining “long sentence, correct grammar!!

Ok, !! but by the way, what do you want to say?” will get asked, that`s all!! Getting ended.

English speakers, at the time of noticing our side is not native speakers, they no complain our speaking miss, oppositely, cover our miss, thus the cases so many, looks like.

From above in our country education of English language is perfectly aiming at out of target, despite of spending huge cost and time. As a result no can speak in English. Very waste efforts and energy. Stupid!!

In so many cases on internet sites, it's seen that native instructors for speaking in English have checked or have forced non native English speakers respoken to correct native style English, but that is forced from hiring instructor side "guide them like that" merely only, they have done that, in actual, real English speakers no mind such tiny differences.

But even native instructor side, in the case of paid money amounts getting turned to be different, hiring side request they never can reject.

Even if in their mind, in real not agree above hiring side request..." real English speakers no mind such tiny differences".

And thus tiny miss checking each time, will get disliked from arounds...

But minimum, difference of between "on the desk", "at the desk", native counts it miss, except it, almost of all ok, native will.

Rather, for them, serious trouble points is Japanese people's bad pronunciation in English. For example, "MacDonalds"/"macdonaldo", "Disneyland"/"Disneylando",

Or due to using by "Jan-glish" (=Japanese proper English), invites confusion, for example, "pantsu"/pants, "Zubon"/"pants" like that.

And it's the most important point, our speaking story contents is interesting for them or not interesting.

In the case of interesting one, they will try to do no missing our speech.

Quantity of English words, Japanese general people have held more rather than English speakers, might it be, I suppose.

I got remembered that when English speakers hearing of Japanese general people using very rare English word", they got shocked.

Or "Which from bring it?", or "Which language is it?"

Knowledge about English is very enough, until secondary school class got learned, the one.

Grammar of English language, we already got taught all until secondary school era. And max, SVOC only.

In the term of high-school, univ. merely only increasing the time of reading English text book. No grammar getting taught anymore. No additional in high-school, univ English class."

"From it, you can speak English, who is stupid, no license guy, you!! Hey you, Darling!!"

"English is for stupid, if it's so, smart me is no relevant it!! Don Qui Hote Boss!!"

"Why you 2 put it as an ending? An? Do you 2 envy me? Say it straightly!!"

"BohSoh, BohSoh..."

"MohZoh, MohZoh..."

2026/1/11

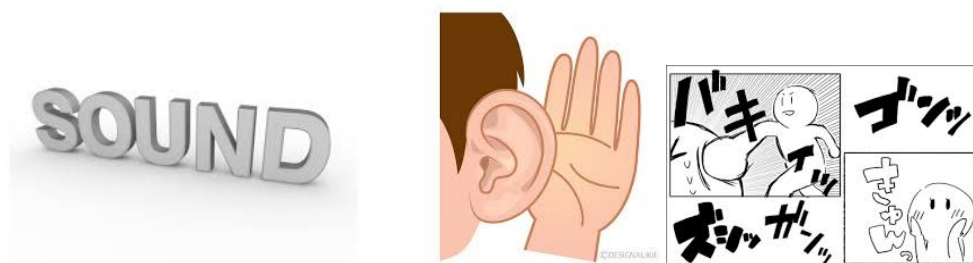
11th Jan. 26

(Japanese expression ver.)

「辞書を置かない英会話教室の英会話特別講義(3)」

(English expression ver.)

“On purpose no setting English dictionary, English conversation class, extra lecture for Japanese.(3)”



(Japanese expression ver.)

「辞書を置かない英会話教室の英会話特別講義(3)」

「耳障りのいい方が文法的に正しい場合が多い。というより文法は聴いて心地よいモノの集大成の様だ。本来文法は、決して理屈の辻褄合わせの産物ではなかったはずだ。

というのも、言葉は文字が生れる前は音による伝達しかなかったんだから、其れは当たり前と言えは当たり前。

だから迷ったらあれこれ理屈を考えずに、音としてリズムやテンポの流れのいい方を選べば大抵文法的にも正しいのを選んでるよ」

「あらま、面倒くさがりで、アタパーのお前さんの大胆な手抜きご発言！！」

「ネエさん、シャチョの得意なのは手抜きだけやおまへんでえ。ナニを抜くのも超得意でっせ」

「再び言うが、あのねえ、チミラ二人、やっぱりワシになんか恨みあるでしょ？なんか、根に持ってるでしょ！！」

「なにもないわよ。日頃の素直な観察の成果を披露しただけよ。ねえ、ネバちゃん」

「シャチョ、もっと自分の日頃の行いを観察し、虚心坦懐に反省した方がええ、おもいまんねんけどねえ、ワテも…」

「ではその、根拠なき風評を打ち消すべく、我が英文法理論を披露致そうぞ…」

「ほんと、大時代的なんだから、此の人…」

「ねぇさん、大時代的って、大袈裟って事でおまんにゃ？」

「無視。

では、始める。

前にも言った記憶があるが、こういう場合、何もつけない無冠詞がいいのか、aとかtheを付けた方がいいのか迷う場合がある。

その場合は、付けないとなんか間が抜けて聞こえればaかtheを付けるし、余計に聞こえれば付けなければいい。それでほぼ正解だ。

後は既に前の話で出てきたものであればthe、そうでなければaをつけておけばいいだけの様な気がする。

そもそも幼子（おさなご）がそんなこと一々考えながら喋ってるとは思えん。

そんな事をいちいち考えて喋っているのは大人になった大学の先生とか、我が国の受験生とかリールに出てくる英語のインストラクターだけであろうものを…」

「いつもながらに、大胆なご発言…殿！！」

「その大胆さを商売に活かしてくれたらと…常日頃思ってたまんじや、ワテ」

「アホンダラ、我が国においては、せこくて、超ドスケベで、常日頃ブツサ言っておるのが「立派なシャチョ」の最低条件なのだぞ。その、横並びを無視した「大胆」など、もってのほかじゃ。ジャパン知らずの、たわけ者がっ！！」

(English expression ver.)

“On purpose no setting English dictionary, English conversation class, extra lecture for Japanese.(3)”

“In so many cases, sounds rhythmical is more correct about grammar rule rather than logical. In other saying, grammar is the total collection of sounds comfortable when hearing of, might be. grammar looks like a, never be on logical matrix getting matched well one. Because before appearing written mark, icons, letters, sounds had been only the one for communicating. So that sound is corrective, almost=grammar correct, selecting., is the natural.

Therefore getting lost the way, without thinking by using logics, following after sounds well on rhythm or tempo, will invite you also grammar correct position.”

“Wow, lazy, crazy hey you, Darling`s very famous your short-cut off way, with big mouth announcement!!”

“madam Poholo, Sir, Don Qui Hote Boss`s very skillful one is not only hand-cut off way but also, the left hand using up-down 1k piston movement to own coc●, too, I suppose.”

“Once more again I will repeat well now, you 2 kids, why some something envy to me? An?”

“Nothing. From my observation to usual you, I got it. that`s all, you too, Nepali?”

“Don Qui Hote Boss, it`s better to check your own usual behavior, and it`s better improving it, I think so too, Boss!!”

“Then a, for deleting the rumor without meaning, will open my theory of English grammar!!”

“Open the theory!? Wow, you are over saying!! Daddy!?”

“Yeah, he always wear a over reaction!!, My Boss!!”

“Will pass it!!

I have memory of former I said, however, will repeat it, the matter is we have the case of we never can judge attaching article (=crown letter signal), well or no attaching it, well.

In this case, when attaching well sounds, attaching, not well sounds , no attaching, this judgement will invite almost of all correct answer on grammar, I guess.

After it, to previous appeared one, attaching “the” article, to non appeared one, attaching “a” article, is enough, to grammar, I suppose.

First, I never imagine kids judge by it.

While checking about it each one, speaking one is only or professor of univ., or exam testers, or instructors of English language on internet site. Is the fact.”

“Always, your dynamic perspective!!”

“I always imagine I wish you are getting alive this dynamism to our business, I always, me!!”

“Stupid, Sancho Panza!! In our country Japan, chicken heart, ultra hyper super pervert, always complaining in their mouths guy is the min. condition of “very great company top”.

While passing this team mind, to have done a dynamic behavior is out!!

Stupid who don`t know Japanese typical custom!!”

2026/1/11-2

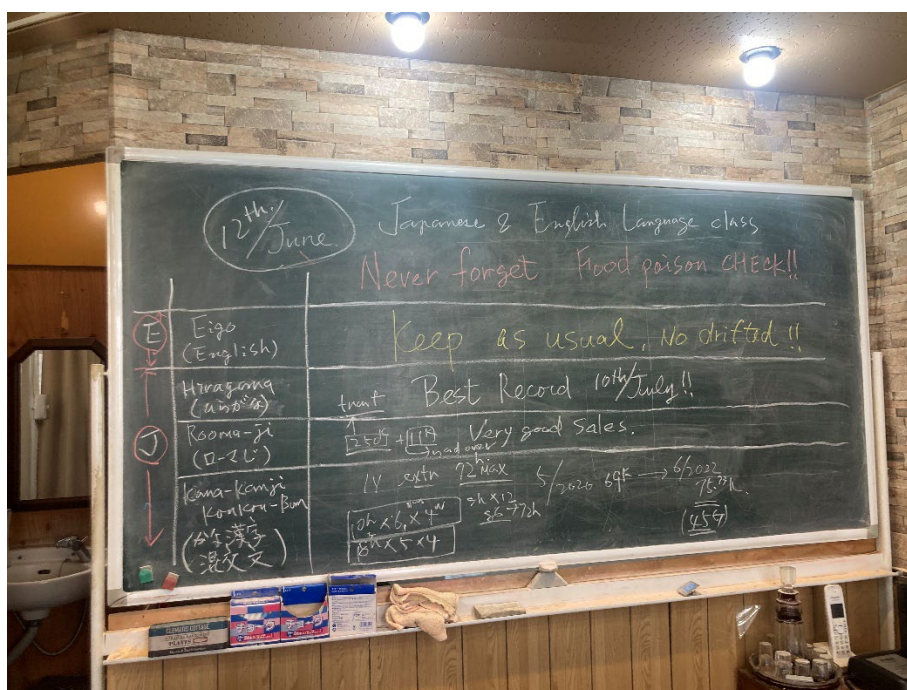
11-2th Jan. 26

(Japanese expression ver.)

「辞書を置かない英会話教室の英会話特別講義(4)」

(English expression ver.)

“On purpose no setting English dictionary, English conversation class, extra lecture for Japanese.(4)”



(2021th)

(Japanese expression ver.)

「辞書を置かない英会話教室の英会話特別講義(4)」

「俺の処に英語を教わりきたのが今迄に四組あったが、皆、二度と来なくなった」

「そりゃお前さんみたいにヘンなのに教わったら、分るものも分からなくなるからじゃないの？」

「でも、シャチョの英語、外国人には評判イイんですよ。ねえさん。

文法的にはめちゃくちゃだけど、話の内容自体は面白いって。

表現方法もネイティブに合わせようとしなくて、ジャパン特有の言い方を逆に英語にするから面白いって…俳句とか和歌とか格言とかの英訳なんですけどね。

日本語や英語直訳じゃなくて、意味が解るように組み替えた殆ど意識なんだけど、その方が分かり易いし面白いって…」

「それにしても四組も帰っちゃったんでしょ？立て続けに…なんで？なんかあったの？」

「最初の組は子供数人とその母親が二、三人来たんだが、「学校で教わるよりもっといい答えが見つかるかもしれないんだヨ」って言った途端親の顔色が変わって二度と来なくなった。

子供は面白そうにしてたんだけど。

次は主婦のおばちゃん、「英語が喋れることを見せびらかすために習いに来る人がいるんですけど、英語喋れたって別にえらくもなんともないんですけどね。我が国じゃ英語喋れるか否かで、インテリか否かを決めてかかっている妙な風潮があるんですけど、変ですよ」って言った時には大きくうなずいていたが、矢張り二度と来なくなった。

次の二人は別々の個人の男だった。

一人は「立ち寄る」って何て言うんですかね？知りませんが私」「え？step byでしょ。そのくらいは…」その人も、二度と来なくなった。そんな単語、それまで知らなかったってその時、覚えたんだからそれで十分じゃねえかよ…

最後の一人は、なんか非常に特殊な職業の女の人を、英単語で「何て言うか知ってますか」って訊いてきたんで、「知る訳ないでしょ。そんな珍しい英語。いいんじゃないですか、professional woman とか一般的な言葉使って言えば…」て言ったら二度と来なかった」

「ふうん。子供に余計な入智慧して、折角その気になってる子供の受験勉強の邪魔しないでよオバサンに、🎵女王様とお呼び🎵なエエカッコシイオバサン、其れと相手をへこましてやろう。俺の方が絶対上だぜ、爺さん二人かあ…」

「シャチョ、🎵雨にも負けず、風にも負けず🎵でんがな。頑張りまひよ。

頼りになる外国人のワテがついてまっさか、心配おまへんで…」

「逆に不安…ヤバ。不可解の深淵を見たような気がする…」

幾ら何でも、ジャパンのシャチョたる者、🎵溺れる者は藁をもつかむ🎵という訳にも行くまい…て」

(English expression ver.)

“On purpose no setting English dictionary, English conversation class, extra lecture for Japanese.(4)”

“Until now 4 groups visiting our English conversation class for learning about it. But no group visiting gain.”

“Because, like you, by crazy, dumb instructor, in the case of getting lectured, they might be getting jammed, they were afraid of it, might be, I guess”

“But Don Qui Hote Boss`s speaking English is very acceptable, hi evaluated from English speakers, madam Poholo, Sir.

Because, sure that his using grammar style is perfectly jammed, but contents of speaking itself is interesting, they said.

Expression way is, on purpose, not to try tracking after native style, original style keeping, for example, translating from Japanese short poem “Haiku”, “Waka”, other proverbs to English language. It`s quite interesting, they said. Not by direct translating but by arranged translating. It`s more understandable, interesting rather than direct one, also they said.”

“By the way, 4groups series, no time to visit anymore. Why? What happened?”

“First group was consisting of several kids and their mothers. But at the time I said “unless the answer which getting learned in school class is top. More better answer might be somewhere”, at once mother`s face got changed, and no time to visit anymore later.

Children looked like interested in.

Next was old woman “Shufu”, to her I said “some of them who hiddenly plan to forcedly show their ability to can speak English, visiting our class, however, can speak English no proving their intelligence, I suppose. In our country, stays very strange misunderstanding custom.” At the time I said, she nodded her head dynamic for showing agreement, but no time to visit us anymore later.

Next 2 persons were men, each by each, different time of visiting our class.

One was to whom I asked “in Japanese language “Tachiyoru (=立ち寄る)” is what`s that in English? I don`t know, so that please show me, if you know” “What? In Japanese “Tachiyoru”=”step by” in English, or not? This level question is so easy enough...

And the old guy no time to visit us later also. Until at the time I hadn`t known it, at the time got learned it. It`s perfectly enough!!...

The last one old guy was asking to me “do you know this English word?” Which was very, very rare one. so that I answered, “exactly, I don`t know thus rare used English word. It might be possible using general English words, for example, “professional woman” or something like that.” after it, the guy no come again, twice.”

“Hm, hm”

“Don Qui Hote Boss, like a Japanese famous short poem, ♪ never get defeated by rain, never get defeated by wind, ♪ tracing is. Let`s hang in there!!

You can all depend on, corner stone foreigner me, always beside you, me stand by!!

Perfectly no problem!!”

“Above comment, vasa versa, will invite anxiety. I feels like got surrounded by chaos.

Even if Don Qui Hote Boss, as a Japanese company CEO, have to reject the mind of 🎵the
guy who getting drunk by pond water, grabbing even if a straw for saving own vital life🎵”

著者プロフィール) Writer`s profile.

うときゅう いっき(writer`s name utokyu ikki or Khazu san)

本名 宇都宮一貴 (うつのみや かずたか)

1953 年東京生まれ(was born in 1953 in Japan.)

早稲田大学第 1 文学部露文学科を 2 回留年の後、卒業。

国内電機メーカー家電製品商品企画部に 20 年間勤務。同子会社経理部等に 16 年間勤務。

40 歳から 52 歳まで 12 年間うつ病を罹患。

左遷、リストラ、降格、離婚、家族崩壊等を経験。

定年後、株式会社 うと Q を設立 (After retirement from Toshiba, established, “utokyu corporation” in 2014)

現在主業はネパールカレー屋。(Now main business Nepali curry restaurant, “Namaste everybody” owner)

趣味は観察すること、考えること、書くこと、盗撮はしないスマホ・カメラの四つの k。

著者名は苗字、宇都宮一貴の音読みで、中学校時代の仇名。

宇宙の「う」

東京都の「と」

宮殿の「きゅう」

数字の「いち」を詰まり音便で「いっ」

貴族の「き」

で、うときゅういっき となります。

漢字表記にしますと、かなり御大層な人物に見え、実態に全くそぐっておりませんので、誤解を招かぬよう音読みひらがなで表記しております。

ホームページ：<http://utokyu.co.jp>

(出版情報)

著 者 うときゅういっき

発行人 宇都宮一貴

発行所：株式会社 うと Q ナマステ別館堂出版部

〒215-0018

神奈川県川崎市麻生区王禅寺東 5 丁目 3 4 番 7 号

電話 (phone)：044 - 989 - 1698

発 売 株式会社 うと Q ナマステ別館堂出版部

編 輯 「ナマステ別館堂出版部」

カバーデザイン & DTP 製作 当面の間「ナマステ別館堂出版部」及び「ナレッジフォレスト 大竹鉄哉」

©Kazutaka Utsunomiya uploaded in Japan from 2020

発行日：2026/1/11 日初版発行（11th Jan. 26 released.）

本書の一部または全部について、著作権上、著作権者の承認を得ずに、無断で複写、複製することは禁じられています。All cory rights reserved.

（その他著書）

●多数

●尚、掲載写真は全て google 画像サイトの著作権フリーのものをダウンロードして使用しております。当社には著作権、版權は全くない事を明記させて戴きます。